

一 文語と口語

1 p.3

基本演習

- ①花(は)は(または、が)咲き、鳥(は)が(が)歌ふ。
- ②川(を)見れば、魚(を)釣る人(が)あり。
- ③海(が)荒れば、船(を)いださず。
- ④花は、ひとえな(のが)よい。
- ⑤梅の白(い)の(を)持ってきた。
- ⑥雨(が)降る(とき)に、国境を通過して行く。

3 p.4

⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
ら	な	せ	こ	え	け	ぢ	み	か
り	に	し	き	え	け	ぢ	み	き
り	ぬ	す	く	ゆ	ける	づ	みる	く
る	ぬる	する	くる	ゆる	ける	づる	みる	く
れ	ぬれ	すれ	くれ	ゆれ	けれ	づれ	みれ	け
れ	ね	せよ	こよ	えよ	けよ	ぢよ	みよ	け
ラ	ナ	サ	カ	ヤ	カ	ダ	マ	カ
変	変	変	変	行下二段	行下二段	行上二段	行上二段	行四段

2 p.7

口語訳

- ①京都に恋しく思う人がないわけではない。
- ②この影を見ると、たいそう悲しいよ。
- ③このことをほんとうかと調べてみると、昔あった家はごくまれである。
- ④命をおとしたら、どうしようもない。
- ⑤命を惜しまないで戦って、皆追いつ返してしまった。
- ⑥以前から思っていたとおりの顔をした人はいない。
- ⑦静かな暇もなく自分の一生を苦しめるのは愚かなことである。
- ⑧高い峰の桜が咲いたことだ。人里近い山のかすみよ、立ちこめないでほしい。

解答

⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
ナ、連用形	ト、已然形	セ、連用形	サ、未然形	ケ、未然形	カ、已然形	エ、已然形	ア、連体形
ニ、未然形	ツ、連用形	ソ、連用形	シ、連用形	コ、未然形	キ、連用形	オ、終止形	イ、連体形
		テ、連体形	ス、連用形	ク、終止形	久、終止形	ウ、未然形	

1 p.8

基本演習

- ①花が咲く。
- ②花が散った。
- ③花が咲いたか。
- ④だれかいるか。

口語訳

1 p.9

発展演習

- ①根本の光る竹が一本あった。
- ②どの山が天に近いか。
- ③水はその山に三か所流れていた。
- ④(宮中で)行いなさるようすはすばらしいよ。
- ⑤やはり誤りがあるかもしれないと疑う人がいる。
- ⑥庭の流れから水蒸気があがるのは趣がある。

口語訳

- ①なむ……ける
- ②か……近き

解答

- ①見ゆる
- ②美しき
- ③暮るれ
- ④静かなる
- ⑤立て

2

口語訳

- ①花が美しい。
- ②花が咲いているよ。
- ③花は情趣深い。
- ④花が咲くという。
- ⑤花が美しい。
- ⑥花が咲いているよ。
- ⑦花は情趣深い。
- ⑧花が咲くという。

解答

ア、カ行四段	イ、ヤ行下二段
ウ、ガ行上二段	エ、ダ行下二段
オ、マ行四段	カ、ラ行四段
キ、ワ行上一段	ク、ラ行四段
ケ、ハ行四段	コ、ラ変
サ、ナ変	シ、ラ行下二段
ス、ナ行上一段	セ、ラ行四段
ソ、サ変	タ、ラ行下二段

解答

- ①ここから峰がつづいているのを通り、炭山を越え、笠取山を過ぎて、あるいは岩間山(の正法寺)に参詣し、あるいは石山寺を参拝する。
- ②伊勢の国から、女で鬼になったのを(誰かが)連れて上京しているというわきがあった。
- ③朝夕、死ぬ人がいたり、生まれる人がいたりする世のならわしは、ちょうど水の泡に似ていることだ。
- ④割ろうとするけれども、簡単には割れない。

1 p.6

発展演習

なら	なり	なり	なる	なれ	なれ	ナリ活用
から	かり	かり	かる	かれ	かれ	ク活用
く	く	く	きる	けれ	けれ	シク活用
しから	しかり	し	しかる	しけれ	しかれ	ク活用
しく	しく	し	しきる	しけれ	しかれ	ク活用
から	かり	し	かる	けれ	かれ	ク活用

4 p.5

5